

1 著者（编者）の主要著書・論文・研究歴等

著者（编者）の次の点について過去から年次順に記述すること。

- ① 主要著書の題名、出版社等名、及び発行年
- ② 主要論文名、掲載された雑誌名、及び発表年
- ③ 主要職歴及びこれまでの主な研究内容

なお、著者（编者）が多人数のため、書ききれない場合は、代表して何名かの著者（编者）について、収まる範囲で記述すること。

※1頁以内で記述すること。

計画調書作成に当たって留意すること

○本留意事項の内容を十分に確認し、計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

留意事項：

1. 作成に当たっては、計画調書作成・記入要領を必ず確認すること。
2. 本文全体は11ポイント以上の大きさの文字等を使用すること。
3. 各頁の上部のタイトルと指示書きは動かさないこと。
4. 指示書きで定められた頁数は超えないこと。なお、空白の頁が生じても削除しないこと。

○本留意事項の内容を十分に確認し、計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

2 刊行の目的及び意義

当該刊行物を刊行するに当たって、次の点について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述すること。

- ① 当該刊行物と類似・関連する国内外の研究成果等を適宜引用し、それらとの違いを明確にした上で「刊行の目的」、「意義」、「学術的価値」及び「国内外における当該刊行物の位置づけ」について具体的に記述すること。
- ② 当該年度（又は翌年度）に刊行する意義及び学術的価値について記述すること。
※当該年度：令和4（2022）年度、当該年度翌年度（令和5（2023）年度）
- ③ 本科研費が必要な理由及び科研費の交付を受けられない場合の状況等について記述すること。

※2頁以内で記述すること。

様式S-51-4 計画調書（添付ファイル項目）

【2 刊行の目的及び意義（つづき）】

学術図書 3

3 刊行物の内容（概要）

当該刊行物の内容について次の点について記述すること。

- ① 当該刊行物の目次の項目及び各項目の頁数について列記すること。
- ② 当該刊行物の概要について、目次に記載した編・部・章等の単位でまとめ、それぞれ記述すること。必要に応じて完成した原稿の内容（図表等含む）を用いること。
- ③ 当該刊行物が過去に公開済みの論文等の内容を含む場合には、当該刊行物において新たに加わった知見等について具体的に記述すること。また、以下の情報を記述すること
 - ・基になる論文等の情報（著書の場合は書誌情報、並びに、論文の場合は論文名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年月、及び登録されている機関リポジトリ等の名称及びURL）なお、該当しない場合には「該当しない」と記述すること。
 - ・博士論文を基としている場合には、以下の内容を記述すること。なお、該当しない場合には「該当しない」と記述すること。
 - （1）博士論文についての情報（題目、提出大学、提出年月）
 - （2）機関リポジトリへの公開状況（全面公開、要旨のみ公開、未公開）及び公開先URL

なお、本欄は、審査を行う上で重要な欄であるため、内容が的確に把握できるよう、十分検討の上記述すること。

※4頁以内で記述すること。なお、空白の頁が生じても削除しないこと。

様式S-51-4 計画調書（添付ファイル項目）

【3 刊行物の内容（概要）（つづき）】

学術図書5

様式S-51-4 計画調書（添付ファイル項目）

【3 刊行物の内容（概要）（つづき）】

学術図書 6

様式S-51-4 計画調書 (添付ファイル項目)

【3 刊行物の内容 (概要) (つづき)】

学術図書7

4 本刊行物が学術の国際交流に対して果たす役割

当該刊行物の刊行が、学術の国際交流に対して果たす役割（例えば日本独自の文化、歴史等についてとりまとめた研究成果を外国語で刊行することにより、海外における当該研究領域にもたらす効果、国際的に行われている学術研究領域において当該刊行物が果たす役割等）について記述すること。

特に、翻訳・校閲の上、刊行する場合は、本刊行物を広く海外に提供することの目的及び意義について、必ず記述すること。

なお、学術の国際交流を目的としていない場合は、「該当しない」と記述すること。

※ 1 頁以内で記述すること。